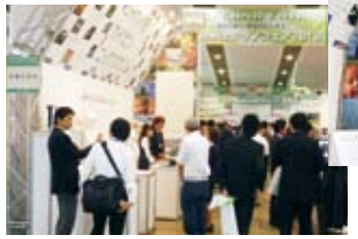
NICCAの社会貢献

環境に配慮した製品・取り組みを紹介

当社は地球環境に貢献する企業として、グループでの環境対応製品比率60%以上を目指しており、省資源化や環境にやさしい製品の開発、「ISO14001」認証の取得など積極的に環境問題に取り組んでいます。
今年も10月21～22日に福井県産業会館で開催された北陸技術交流テクノフェアに参加し、県内外からおよそ160の企業や団体がブースを出展する中、当社は環境に配慮した製品や取り組みをご紹介しました。
脱墨剤への理解を深めていただけるよう、古紙再生時に紙からインクを剥離させる様子をDVDで上映しました。またハウスホールド事業部は洗濯時の水や熱量を削減できる洗浄剤をご紹介し、身近な薬剤とあって多くの方が説明に耳を傾けていました。さらに人工皮革や塗料分野で使用される水系ウレタン樹脂はさまざまな産業界の方から注目を集めていたほか、化粧品部門からは商品の輸送時にかかる熱量削減の取り組みや、環境に配慮した包装材をご紹介しました。



新商品のご案内

「コンポジオ」シリーズに新アイテム登場

デミ コスメティクスでは、最新毛髪科学を応用した前後処理剤「コンポジオ」シリーズより、美容技術者専用システムトリートメント「コンポジオ EQ」、ヘアカラー・パーマ専用ヘアケア「コンポジオ ヘアケア」を新たに発売しました。
「コンポジオ EQ」は、美しい髪の条件である"つややかさ、まとまり、うるおい"を追求し、髪内部のダメージを補修し、本来の状態に戻すことにより髪を美しく輝かせ、お客様に"キレイ"を提供するシステムトリートメントです。「コンポジオ ヘアケア」は、ダメージをケアするだけではなく、ヘアカラーやパーマをより長く楽しむためのヘアカラー・パーマヘア専用ヘアケアとなっています。
※デミ コスメティクスの商品は全て美容室専売品です

コンポジオ EQ

コンポジオ ヘアケア

会社概要（2010年9月30日現在）

商　　号	日華化学株式会社
本社所在地	福井県福井市文京4丁目23－1
創　　立	1941年9月15日
資 本 金	2,898,545,000円
従業員数	1,109名（連結）　536名（個別）

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基　準　日	定時株主総会・期末配当　毎年3月31日／中間配当　毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号　中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号　中央三井信託銀行株式会社　証券代行部（電話照会先）電話　0120-78-2031（フリーダイヤル） 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

●本社・総合研究所・デミ毛髪科学研究所・化粧品製造所／〒910-8670 福井市文京4丁目23-1　TEL（0776）24-0213（代）
●支店／大阪・東京・名古屋・北陸　●営業所／福岡・札幌・富士　●工場／鯖江・関東・鹿島　●鯖江物流センター　●デミ ヘア サイエンス スクエア東京・大阪・名古屋
［国内関係会社］山田製薬株式会社　株式会社ニッコー化学研究所　江守エンジニアリング株式会社　ローディア日華株式会社　コスメラボ株式会社　株式会社海月研究所　イーラル株式会社
［海外関係会社］台湾日華化学工業股份有限公司　ニッカ KOREA CO., LTD.　STC ニッカ CO., LTD.
PT.インドネシアニッカケミカルズ　ニッカ U.S.A., INC.　香港日華化学有限公司　広州日華化学有限公司
日華化学研発（上海）有限公司　浙江日華化学有限公司　ニッカ VIETNAM CO., LTD.　徳亜樹脂股份有限公司
●発行／日華化学株式会社　広報室　●発行月／2010年12月　通巻19号　●制作／株式会社橋本確文堂

日華化学株式会社
NICCA CHEMICAL CO.,LTD.
http://www.nicca.co.jp

日華化学の“いま”をダイレクトに伝える

GLOBE

グローブ

第97期第2四半期　営業のご報告
2010年4月1日～2010年9月30日

Nicca Challenge 2010

新中期経営計画スタート

500億円企業へ向けてテイクオフ

○マルチナショナルカンパニーへの道
○ユーザーレポート 撥剤の世界戦略で欠かせないパートナー
○TOPICS
○開発最前線 NICCA製品の源・AO付加技術
○財務の状況
○NICCAの社会貢献
○新商品情報

NICCA

株主の皆様へ

日華化学グループは、企業活動を通じて、人々のくらしを豊かにすることを使命とし、株主様、お客様、社員、そして社会から信頼され選ばれる企業グループを目指すことを企業理念に定めております。全社員がこの理念を共有し、実現に向けて日々の事業活動に取り組んでおります。

ここに第97期第2四半期連結累計期間（2010年4月1日～2010年9月30日）における事業のご報告を申し上げます。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご指導を賜り、末永くお付き合いいただきますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 江守康昌

2010年度（第97期）第2四半期のご報告

国内経済はエコポイントやエコカー減税などといった政府の景気対策や、新興国を中心とする外需の拡大により一部で持ち直しの動きが見られました。しかしながら急激な円高進行や株価の下落など、依然先行き不透明な状況で推移いたしました。このような情勢の中、当社グループは化学品事業、化粧品事業ともに積極的な営業活動を推進し、売上高、営業利益、経常利益では3期ぶりの増収増益となりました。

下期は、当社グループのネットワークを生かしながら、中国・アセアン地域を中心に拡販・事業強化を図ってまいります。

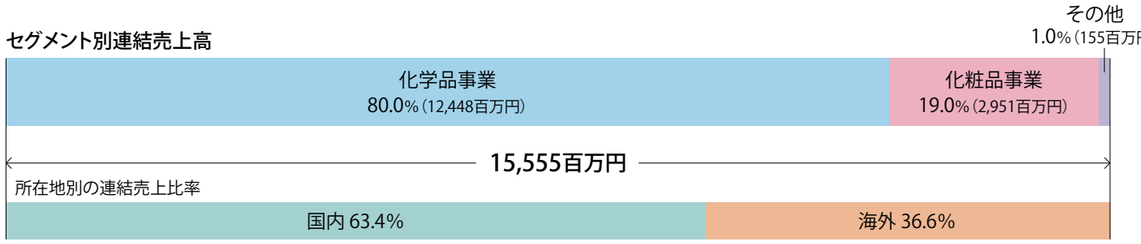
また、創立75周年となる2016年までの長期ビジョンを目標にしつつ、その達成に向けた指針として2010年度を初年度とする3カ年中期経営計画を策定し、攻めの一歩を踏み出しました。

「新生と深化」をコンセプトに、社員・組織が常に学び、改善・変革を繰り返しながらグループ一丸で成長してまいります。

当第２四半期決算概況

連結売上高15,555百万円、9.6%増
連結営業利益714百万円、11.8%増、経常利益640百万円、4.0%増（前年同期比）

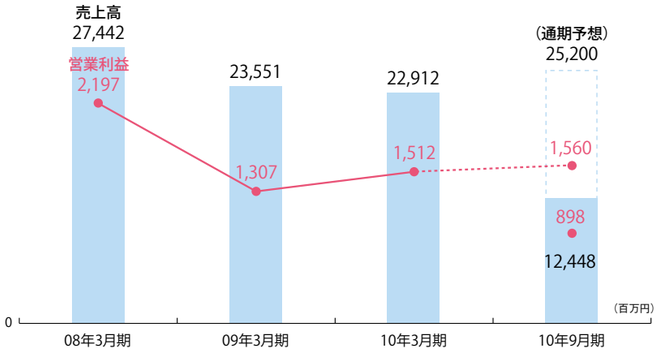
セグメント別連結売上高



化学品事業 〈連結売上高・営業利益推移〉

中国・アセアンを中心に需要拡大

化学品事業は自動車産業の回復により、関連分野での需要が持ち直したことや、中国やアセアン諸国でのさらなる事業拡大を目指し新規顧客獲得や既存分野の深耕に注力した結果、売上高は12,448百万円、営業利益は898百万円となりました。



	09年9月期	10年9月期	増減率	11年3月期（予想）
売上高	11,103	12,448	12.1%	25,200
営業利益	760	898	18.1%	1,560

（百万円）

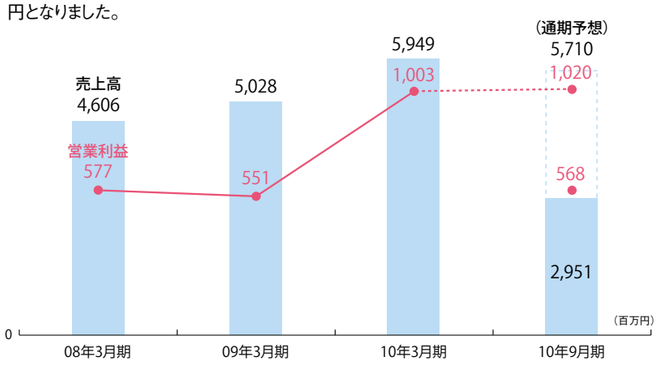
※2010年9月期より、セグメント利益の算出方法を変更しております。これにより当期のセグメント利益は従来の方法に比べ、37百万円減少しております。　※百万円未満は切り捨てて表示しています。

- ⊕ 中国・アセアン等で繊維加工用関連薬剤拡販
- ⊕ エコカー減税等、政府の景気対策により、自動車関連産業が回復
  金属工業用関連薬剤の需要回復
- ⊕ 環境対応型製品（水系樹脂製品、脱墨剤）が順調に推移
- ⊕ ハウスホールド関連薬剤の国内新規売上
- ⊕ 製品統廃合、配送体制の見直しによる企業体質の改善
- ⊖ 円高による売上の目減り

化粧品事業 〈連結売上高・営業利益推移〉

美容業界の低迷は続くも、好調な推移

化粧品事業はヘアケア剤のサマーバージョン、新システムトリートメント剤、スタイリング剤等の新商品を発売したほか、新ブランド「イーラル」を新たな事業として立ち上げるなど、積極的に事業を展開した結果、売上高は2,951百万円、営業利益は568百万円となりました。



	09年9月期	10年9月期	増減率	11年3月期（予想）
売上高	2,816	2,951	4.8%	5,710
営業利益	396	568	43.2%	1,020

（百万円）

※2010年9月期より、セグメント利益の算出方法を変更しております。これにより当期のセグメント利益は従来の方法に比べ、101百万円増加しております。　※百万円未満は切り捨てて表示しています。

- ⊕ サロン店頭販売製品の大幅拡大
  - ・ヘアケア新商品
    夏限定「ヘアシーズンズ　サマーバージョン」
    システムトリートメント「コンポジオ」
  - ・スタイリング新商品大好評
    ウェーボシリーズ「ウェーボ デザインエッグ」
- ⊕ 新ブランド「イーラル」を設立　美容業界から注目浴びる
- ⊖ 手指消毒剤の大幅減少
  （前年度インフルエンザ流行による特需）

キーワードは『新生と深化』。500億円企業へ向けてテイクオフ

日華化学はこのたび、創立75周年となる2016年への「長期ビジョン」と、その実現に向けた「中期経営計画（2010～2012）」を策定しました。2008年の世界同時不況以来、全社一丸となってコストダウンや在庫圧縮などに取り組み、利益の出る「筋肉質」の体質へのチェンジを図り、難局を乗り越えてきました。今回の中期経営計画には、その成果と経験、そして新たに歩を進めていこうとする日華化学グループの決意が込められています。

日華化学株式会社　代表取締役社長　**江守康昌**（えもり やすまさ）

2016ビジョンについて

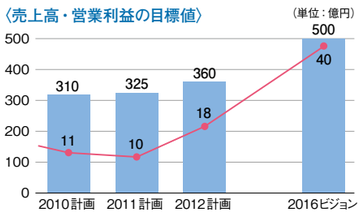
――長期ビジョン=2016ビジョンとはどのようなものでしょうか。

当社は2016年に創立75周年を迎えます。「NICCAブランドを浸透拡大しアジアNo.1になる」ことを経営ビジョンとしており、これに基づく新たな目標設定を行いました。
具体的な達成目標は次の通りです。

売上高（連結）	500億円（	2009年度 294億円）
・国　内	250億円（	〃　179億円）
・海　外	250億円（	〃　115億円）
・化学品	400億円（	〃　229億円）
・化粧品	100億円（	〃　59億円）
営業利益	40億円（	〃　14億円）

また「人材・製品・技術・お客さま対応などの品質を世界レベルに高める」、「地球環境に貢献する企業として環境対応製品比率60%以上を目指す」というビジョンも掲げました。これらの目標は言うまでもなくチャレンジャブルなものです。しかし今後当社が80年、100年と発展・継続していくために、達成しなくてはならないマイルストーンだと考えています。その意味で「500億円」はあくまでも通過点にすぎません。

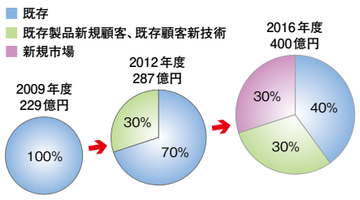
〈売上高・営業利益の目標値〉



――このたび策定された長期ビジョンと中期経営計画のポイントは何でしょうか。

それは、キーワードに掲げた「新生と深化」に象徴されています。
「新生」という言葉を使ったのは、これまでの日華化学の体質・内容を変えねばならないという思いがあるからです。仮に、これまでの延長線上で2016ビジョンの数字が達成できたとしても、それは私たちが目指すものではありません。私たちが目指しているのは企業体質の変革であり、新しい技術・サービスによって新しい市場分野・顧客を切り拓き、その結果が目標数値の達成に結びつかなくてはならないということです。つまり新規分野・新規顧客の比率を2016年までに60%に高めたいと考えています。
「深化」というのは、私たちの大きな資産である中華圏を中心としたアジアで構築してきたビジネス・ネットワークを駆使すること。いま私たちはわが社の歴史の中で最大のチャンスの時を迎えています。繊維産業は日華化学の主要な顧客ですが、世界の繊維ビジネスの6～7割が中国・アジアに集中してきたからです。言うまでもなくこのエリアは私たちが40年近く前から拠点を展開してきた地域。NICCAの理念や社員に対して高い評価をいただいているエリアでもあります。このネットワークをフルに活用し、アジアの可能性をさらに深耕していきたいと考えています。

〈化学品部門の新製品・新事業・新顧客の比率〉



生産拠点を再編・強化

――国内外４工場を再編、生産力も大きく向上しました。

11月にはかねてより待ち望んでいた鹿島工場が操業を開始しました。この工場ではNICCA製品の原料となる「非イオン界面活性剤」を生産しており、最新鋭設備の導入で品質と生産能力が飛躍的に向上しました。また来年1月から台湾新工場の第一期工事を予定しており、同12月の完成を目指します。
この2工場に加え、国内の鯖江工場は特殊機能製品づくりの旗艦工場として、中国の浙江日華工場は中国をはじめアジア全域にベース原料を供給していく拠点として、それぞれの役割を明確にしました。これら4つの工場による生産ネットワークは、今回の長期ビジョン・中期経営計画を推進していく強固な基盤となってくれることでしょう。

中期経営計画（2010～2012）について

――これからの事業展開と展望は？

中期経営計画では、どのような課題に取り組んでいくのでしょうか。

化学品事業①
No.1戦略

化学品事業には、「アパレル・インテリア」「自動車」「製紙」「ハウスホールド」というコア事業がありますが、これらすべての分野で「シェアNo.1」となる製品の開発を目指します。当社には既に、製紙や水系ウレタン、車の内装材、ドライクリーニングなどでNo.1シェア製品を保有していますが、まだ2位以下に甘んじている分野もあります。これを高め、さらには中国、アジアでもNo.1になっていこうと思っています。これは極めて具体的に実現がイメージできるテーマです。

化学品事業②
新分野・新製品・新市場へのアプローチ

前述の通り、2016年には新規分野・新規ビジネスの比率を60%にまで高めたい。そのために、新分野・新製品・新市場への積極的なアプローチを開始します。具体的には「医療」「衛生」「健康」、電子部品材料などの「先端技術」、そして「環境」分野への参入を図ります。またバングラデシュ、インド、ブラジルなど新しい市場エリアでの事業展開も行っていきます。

化粧品事業
総合美容メーカーへ

ヘアケアブランド「デミ」に加え、2010年には新ブランド「イーラル」もスタートしました。今後はさらにマルチブランド化を推進し、美容業界でのシェア拡大を図ります。また他社ブランドのOEM生産なども行いながら“美容”分野に多角的にアプローチします。さらに中国・韓国市場での展開も進めていく考えです。

中国戦略の強化
経営基盤の強化

中国生産体制の再編を図るとともに、中国全土にわたる販売網を強化。日華化学研発（上海）の戦略的活用により、研究開発から生産、販売までのサプライチェーンを充実させるなど、中国への積極的なアプローチを続けます。またグローバルな事業展開を担うにふさわしい人材の育成やIT環境、品質保証体制の構築など経営基盤の強化も図ってまいります。

日華化学は、2008年以来の難局を乗り越え次のステージへと向かいます。株主の皆様には変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

□ 今後の展開に向けた４つの課題

化学品事業の**新生**	**コア事業の深化成長** ・アパレル、インテリア、自動車、製紙、ハウスホールドを軸に事業力を強化 ・環境対応製品のグローバル展開 **新事業領域の拡大** ・健康（医療・衛生）、先端技術（電子部品材料等）分野への参入 ・新市場への参入（バングラデシュ、インド、トルコ、パキスタン、ブラジル等）
中国戦略の**強化**	**経営資源を投入、拡大戦略を実行** ・中国全土にわたる販売網の強化 ・テキスタイル技術を集結、アジアの中核拠点に ・中国生産体制の再編
化粧品事業の**拡大**	**総合美容メーカーへ転換** ・マルチブランド戦略の推進 ・美容業界でのシェア拡大 ・中国／韓国等、海外市場への展開
経営基盤の**強化**	**グループ間シナジーを最大限に発揮** ・マルチナショナルカンパニーを目指した人材育成 ・財務体質の強化 ・グローバルITの構築 ・グローバル品質保証体制の確立

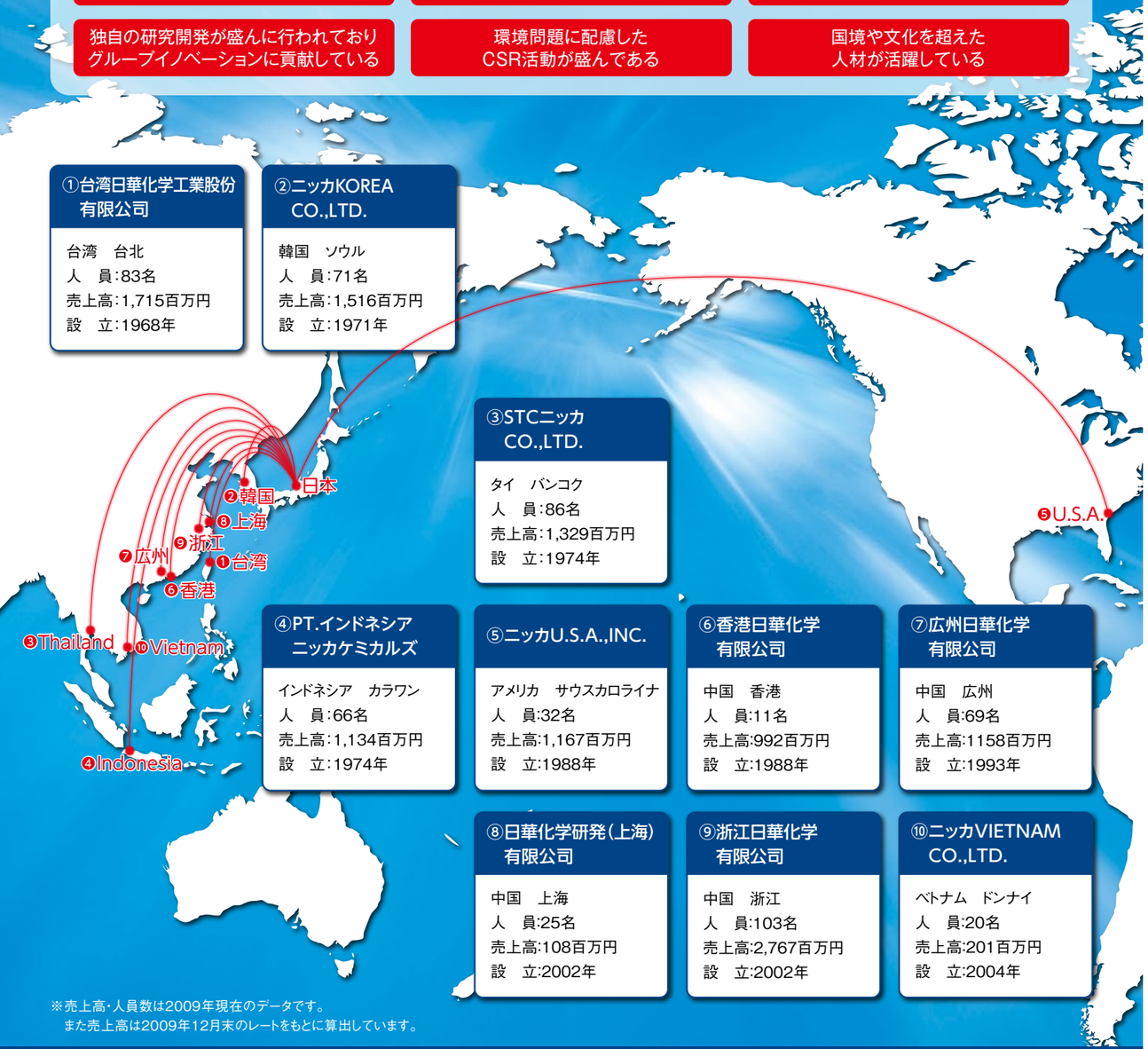
マルチナショナルカンパニーへの道

NICCAグループの目標である「マルチナショナルカンパニー」。
創業以来の理念である「お客様への奉仕·会社の繁栄·社員の幸福」を世界の全拠点で共有しながら、
現地のスタッフが自主的に運営し、拠点間で技術·情報を交流させて
共に発展を目指すグループであることを意味しています。

アジアを中心に世界へ広がるNICCAのネットワーク。その拠点をご紹介いたします。

マルチナショナルカンパニーとは

- NICCAクオリティで国際競争に勝てる企業群
- グループ企業個々に経営が完結できる力を持つ
- グループ企業が独自で改善改革活動を進めている
- 独自の研究開発が盛んに行われておりグループイノベーションに貢献している
- 環境問題に配慮したCSR活動が盛んである
- 国境や文化を超えた人材が活躍している



①台湾日華化学工業股份有限公司
台湾　台北
人　員:83名
売上高:1,715百万円
設　立:1968年

②ニッカKOREA CO.,LTD.
韓国　ソウル
人　員:71名
売上高:1,516百万円
設　立:1971年

③STCニッカ CO.,LTD.
タイ　バンコク
人　員:86名
売上高:1,329百万円
設　立:1974年

④PT.インドネシア ニッカケミカルズ
インドネシア　カラワン
人　員:66名
売上高:1,134百万円
設　立:1974年

⑤ニッカU.S.A.,INC.
アメリカ　サウスカロライナ
人　員:32名
売上高:1,167百万円
設　立:1988年

⑥香港日華化学有限公司
中国　香港
人　員:11名
売上高:992百万円
設　立:1988年

⑦広州日華化学有限公司
中国　広州
人　員:69名
売上高:1158百万円
設　立:1993年

⑧日華化学研発(上海)有限公司
中国　上海
人　員:25名
売上高:108百万円
設　立:2002年

⑨浙江日華化学有限公司
中国　浙江
人　員:103名
売上高:2,767百万円
設　立:2002年

⑩ニッカVIETNAM CO.,LTD.
ベトナム　ドンナイ
人　員:20名
売上高:201百万円
設　立:2004年

※売上高·人員数は2009年現在のデータです。
また売上高は2009年12月末のレートをもとに算出しています。

次号より海外の拠点を取材·レポートし、海外の市場の現状や今後の展開をご紹介します。ご期待ください。

ユーザーレポート

刺激を受け合う“似た者同士”。世界戦略に欠かせないパートナー。

ダイキン工業株式会社
取締役兼副社長執行役員　川村 群太郎 様

空調機メーカーとして知られるダイキン工業株式会社様は世界を代表するフッ素化学品の一大メーカーでもあります。同社のフッ素化学分野における歴史は戦前にさかのぼり、現在では世界をリードする存在となっています。フッ素を活用して樹脂やゴムをはじめ、撥剤（水や油をはじく機能を持った薬剤）を製造·販売しており、日華化学はそのうちテキスタイル用撥剤の開発·販売を共同で行っています。世界No.1のシェアであるダイキン工業様のテキスタイル用撥剤において、日華化学がこれからどのような役割を果たすのか。取引の感想や今後の期待について、副社長の川村群太郎様にお聞きしました。

日華化学とはいつから取引を?

昔から取引があったと思うのですが、本格的に協業が始まったのは1989年です。当時国内のテキスタイル用撥剤市場は他社にほぼ独占されており、その状況を打破するため当社の井上礼之会長（当時専務）が日華化学の江守幹男会長（当時社長）に協力を依頼したのを皮切りに、共同研究がスタートしました。トップ同士の肝入りとあって現場もこの研究に注力してくれ、非常にスムーズに開発が進み、現在では撥剤のシェアは約50%にまで拡大しています。

日華化学と協業した理由は?

最大の決め手は技術力です。当社はフッ素、日華化学さんは界面活性剤のスペシャリスト。2つのトップクラスの技術が合わさることで最先端かつ高性能の撥剤がつくれると思ったからです。数年前から、当社では環境に影響を与えると考えられる物質「PFOA※」を2012年末にフッ素製品から全廃する取り組みを進めており、日華化学さんの技術があったからこそテキスタイル用途に適用する撥剤の開発ができたんです。
そして日華化学さんの対応力にも惹かれましたね。撥剤は使用環境に合わせる必要があり、日華化学さんは性能を維持したままユーザーが使いやすいよう改良してくれます。大変知名度が高いこと、テキスタイル市場において圧倒的なシェアを保持していることなど、当社にないものを補完してくれる会社だったのが理由です。

※Perfluorooctanoic acid（パーフルオロオクタン酸）の略で、ヒトへの健康被害に関連性を結論づけた報告や法規制はないものの、ヒトへの蓄積性が懸念されている物質

協業での思い出はありますか?

昨年成功させた、大手染色メーカー A社の撥剤開発が一番印象深いですね。これにはおもしろい縁があって、昨年2月の江守会長の旭日中綬章祝賀会に会長の井上が招かれた際、A社の会長が井上にこう言ったんです。「うちで使っている撥剤をダイキンさんのものに替えてもいいが、品質がよくない上に高い」と（苦笑）。耳が痛い意見でしたが、ちょうど当社と日華化学さんの間で協業を加速させる話が出ていたので、願ってもない好機ととらえ、共同研究がスタートしました。
日華化学さんの化学品副部門長（当時）の竹内文雄常務と私の主導のもと、よりよい撥剤の開発を目指し、7月にプロトタイプができました。しかしA社の厳しい耐久試験に合格できず、悔しい思いをしながらも改良を重ねて11月に完成し、見事採用されました。お互いが本気で取り組み成就させた、思い出ある仕事です。

日華化学の印象を教えてください

当社とよく似ている、というのが率直な印象です。特に人材こそが企業の力であると考えている部分。技術力がある会社には優れた技術者がいる、そんな人材を育てる土壌があるように思います。そして“やらされている”のではなく、技術者が自発的に行動し研究できる環境であるところもそっくりです。加えて、日華化学さんの技術者は自らユーザーのもとに出向いて潜在ニーズを掘り起こしており、これは当社が学んだ姿勢です。当社はシェアも歴史もある分、フッ素ではまず最初に相談を持ちかけられることが多く、“待ち”の姿勢になりがちでした。日華化学さんの積極性はとてもいい刺激になりましたね。

今後の日華化学とのおつきあいは?

この協業をグローバル規模にしていきたい。当社はすでに海外での撥剤のシェアがかなりありますが、これをさらに拡大する、そのためには日華化学さんの技術が欠かせません。
今後は撥剤のみならず工業用薬剤、さらには化粧品など未開拓の技術にも挑んでいきたい。そのためには当社のフッ素を最大限活用できる技術力が必要で、日華化学さんはそのニーズに応えてくれる会社です。当社のフッ素事業の発展に欠かせない、かけがえのないパートナーですよ。

DAIKIN
ダイキン工業株式会社
大阪府大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル
http://www.daikin.co.jp

TOPICS 〈トピックス〉

台湾への積極的な市場展開の同意書を締結

9月21日台北市で開催された台湾投資サミット（主催：台湾経済部）で、台湾での積極的な企業活動と市場開拓活動に関する同意書を提出し、台湾経済部との間で調印を行いました。今回の調印は台湾政府機関との情報交換や台湾政府の産業支援の制度を利用することも視野に入れて行われました。台湾経済部によると日本企業における覚書への調印実績は楽天、講談社などがありますが、北陸の企業では当社が初めてです。

台湾投資サミットは海外企業の国際投資促進を目的に台湾経済部が2003 年から開催し、華僑および海外の企業、台湾企業そして中国企業が参加しています。今回の投資サミットは中国と台湾の間でのECFA（両岸経済協力枠組協議）調印を受け、新たに生まれるビジネスチャンスについて認識を深めるため開催されました。ECFA 調印によって今後ますます活発化が期待される台湾経済、中国との経済交流（両岸経済）で、新規市場等への進出、さらには一時凍結していた台湾新工場の建設を再開させ、台湾経済の発展に投資する旨を台湾経済部へ提出、調印に至りました。

大阪支店が都心部に移転

10月4日、大阪駅から地下コンコースを歩いて10分ほどの「パシフィックマークス西梅田」に大阪支店を移転いたしました。1963年に大阪・大国町（浪速区）に進出して以来の移転で、新支店には全面に窓がありフロア内はとても明るく、広々とした造りとなっています。

大阪の中心地に支店を構えることで、今後はターゲットを広くとらえ、利便性を最大限に活用した営業活動にも期待できます。また、今まで別々のフロアに設置していた化学品部門、化粧品部門をワンフロアに構えることで、支店内の情報共有やコミュニケーションによる一体感が増し、ますますの発展が期待されます。

鹿島工場が竣工を迎える

鹿島工場建設は2008年2月に発表し、その後リーマンショックの影響で一時中断をしていましたが、2009年6月から建設を再開。去る11月26日に竣工式が行われました。鹿島工場では当社製品の7割に関わる、非イオン界面活性剤の生産供給体制を拡大し、原料調達、効率生産などで競争力の強化を図ってまいります。さらに、今回建設が完了した第一期工事では生産能力は25,000トン／年で、第二期工事は2012年度中に完成予定をしております。

ローディア日華技術フォーラムを上海で開催

ローディア社と日華化学が共同で開催する第3回技術フォーラムが、上海にあるローディア社の新国際研究センターで開かれました。ローディア側よりシンガポール、韓国、阿南化成を含むマネージャークラス以上の方々が出席され、当社も中国統括地区とローディア日華の社員が参加し、およそ30名がポスターセッションと交流会を行いました。フランスと福井で実施した過去2回のフォーラムにはなかった活発な議論と積極的な提案があり、大変有意義なフォーラムとなりました。会場では両社とも互いの技術に大変興味を持ち、今後の取り組みにつながる情報交換ができました。

開発最前線

トレンドの中の日華化学

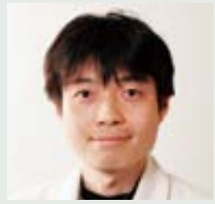
アパレル・インテリア　繊維加工
スペシャリティケミカル　金属加工　機能性化学　紙・パルプ
ハウスホールド　クリーニング
コスメティクス　デミ コスメティクス

鹿島工場で本格稼動

NICCA製品の源「界面活性剤」をつくる AO付加技術

優れた製品は優れた材料から──原材料生産力をパワーアップ。

「界面活性剤」を活用することで、日華化学はさまざまな製品をつくりだしています。例えば洗剤、繊維加工や金属加工に使われる多様な薬剤、そして化粧品…。界面活性剤は製品づくりに欠かすことができない材料、いわば「製品のモト」なのです。そのためのコア技術が「AO付加技術」。その生産拠点が、11月より本格稼動をはじめた茨城県鹿島工場に整備されました。これにより日華化学の界面活性剤生産能力は一段とパワーアップ。競争力にいっそうの磨きがかかりました。



研究開発本部
AOプロジェクトグループ
研究員　杉本 昌繁

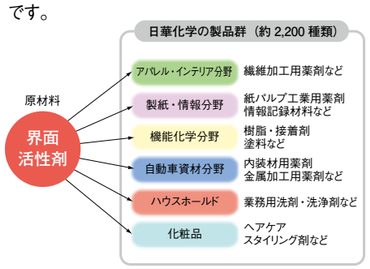
非イオン界面活性剤は技術の“核”

日華化学はいろんな製品をつくっています。その種類は約2千数百種類。衣料用のものから自動車産業や電子産業で使われるもの、化粧品に至るまで多種多様です。

これら製品の基礎原料の一つが「界面活性剤」であり、その中で最も使用量の多いものが非イオン界面活性剤です。乳化剤として使ったり、場合によってはこれにいろいろと手を加えたり、樹脂などの材料に導入したりすることで、図のような多様な製品をつくり出しています。

ところで「非イオン界面活性剤」と言っても、その種類は千差万別。各種分野に応用するために、いろいろな成分・組成の非イオン界面活性剤が必要になります。

非イオン界面活性剤をつくり出す技術は、日華化学の製品づくりを支える"コア中のコア技術"なのです。

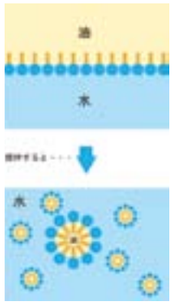


非イオン界面活性剤をつくるAO付加技術

非イオン界面活性剤をつくり出すためにもっとも大切な技術が「AO付加技術」です。

右は界面活性剤の分子構造。油にくっつきやすい部分（親油基）と、水にくっつきやすい部分（親水基）で成り立っています。もともと別々のものだったこの両者を、化学的に結合（付加）させるのがAO付加技術なのです。

なぜ二つの「基」が必要なのか?例えば水と油を一緒にすると二層に分離します。この中に界面活性剤を入れると、水と油の境界面（界面）でそれぞれくっつきやすい方向を向いて並びます。次にこれをよくかき混ぜると、界面活性剤の分子が油を包み込み、小さな粒子となって水の中に分散します。界面活性剤の働きの一つ、「乳化」です。このように親油基と親水基があることで界面活性剤はいろいろな物質に働きかけられるのです。

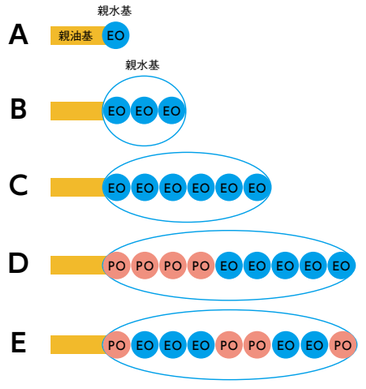


■界面活性剤の分子

どんな組成でも自由自在に

「AO（アルキレン・オキサイド）」というのはエチレンなどの化合物を酸化して生じた物質の総称で、具体的には「エチレン・オキサイド（EO）」「プロピレン・オキサイド（PO）」「ブチレン・オキサイド（BO）」などの物質のこと。EOが主な親水基となります。親油基となるのは、例えばヤシ油やパーム油から誘導された天然物由来の高級アルコールなどです。これらを混ぜ合わせ反応させるとき、それぞれの種類や分量、あるいは触媒や微妙な添加物などを用いることで、出来上がる非イオン界面活性剤の組成を自由に変えられます。

例えば親水性の高い非イオン界面活性剤をつくりたいのならA→B→CのようにEOの付加量を変えます。また別の原料であるPOを付加するこ



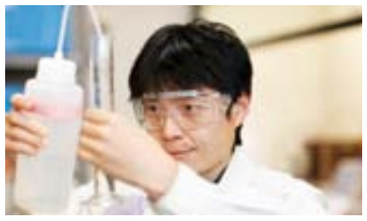
とでさらに違った性能をつくり出せます。POの付加方法にもDのような規則正しいやり方もあれば、Eのようなランダムなものもあります。これらを自在にコントロールし界面活性剤をつくり出していく技術が「AO付加技術」であり、日華化学の半世紀以上にわたるノウハウがここに集約されているのです。

AO付加の新拠点・鹿島工場が稼動

本年11月、鹿島工場が本格稼動を始めました。当社ではこの鹿島工場を「AO付加＝非イオン界面活性剤生産」のための新拠点と位置づけています。本社の研究所と連携しながら新しい界面活性剤の開発を進めるとともに、NICCAグループの「界面活性剤の一大生産拠点」として機能させていく予定です。

鹿島工場AO付加プラントの最大の特徴は、世界でも初となる新生産方式を導入したこと。従来の生産方式から生産効率を数段向上させることができました。鹿島工場の竣工により、多品種少量ニーズに対応しながらも、同一品種大量生産への対応も強化してまいります。

「優れた（新しい）製品は優れた（新しい）材料から」―日華化学の競争力が、また一段とパワーアップしました。



この記事は日華化学ホームページでもご覧いただけます。

財務の状況

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科　目	当第2四半期 (2010年9月30日現在)	前期 (2010年3月31日現在)	増減
(資産の部)			
流動資産	16,499	16,158	340
現金及び預金	3,393	3,826	
受取手形及び売掛金	7,490	7,186	
商品及び製品	2,291	2,129	
仕掛品	330	378	
原材料及び貯蔵品	2,260	1,958	
その他	819	760	
貸倒引当金	△85	△82	
固定資産	17,022	16,441	580
有形固定資産	14,495	13,973	521
建物及び構築物(純額)	4,418	4,555	
機械装置及び運搬具(純額)	1,216	1,205	
土　地	6,165	6,239	
その他(純額)	2,694	1,974	
無形固定資産	451	419	32
投資その他の資産	2,075	2,048	27
資産合計	33,522	32,600	921

科　目	当第2四半期 (2010年9月30日現在)	前期 (2010年3月31日現在)	増減
(負債の部)			
流動負債	13,200	11,931	1,268
支払手形及び買掛金	3,784	3,515	
短期借入金	6,504	5,581	
未払法人税等	121	273	
賞与引当金	462	458	
その他	2,327	2,102	
固定負債	8,185	8,612	△427
長期借入金	5,109	5,495	
退職給付引当金	2,281	2,321	
役員退職慰労引当金	–	169	
負ののれん	–	20	
その他	794	605	
負債合計	21,385	20,544	841
(純資産の部)			
株主資本	12,213	12,076	136
評価・換算差額等	△1,919	△1,787	△132
少数株主持分	1,842	1,767	75
純資産合計	12,136	12,056	79
負債純資産合計	33,522	32,600	921

連結損益計算書

(単位:百万円)

科　目	当第2四半期 (2010年4月1日～2010年9月30日)	前第2四半期 (2009年4月1日～2009年9月30日)	増減
売上高	15,555	14,193	1,361
売上原価	10,339	9,425	913
売上総利益	5,216	4,767	448
販売費及び一般管理費	4,501	4,127	373
営業利益	714	639	75
営業外収益	198	155	42
営業外費用	273	179	93
経常利益	640	615	24
特別利益	4	20	△16
特別損失	107	3	104
税金等調整前四半期純利益	536	633	△96
法人税等	119	150	△31
少数株主利益	103	92	10
四半期純利益	314	390	△75

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

区　分	当第2四半期 (2010年4月1日～2010年9月30日)	前第2四半期 (2009年4月1日～2009年9月30日)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	83	1,656	△1,572
投資活動によるキャッシュ・フロー	△831	△452	△378
財務活動によるキャッシュ・フロー	368	△1,507	1,876
現金及び現金同等物の期末残高	3100	2,640	460

売上高(連結)

化学品事業で中国・アセアン諸国を中心に事業拡大を図るとともに、化粧品事業でも新商品の投入や新ブランド「イーラル」を立ち上げるなど積極的に事業を展開した結果、前年同期比9.6%増の155億5千5百万円となりました。

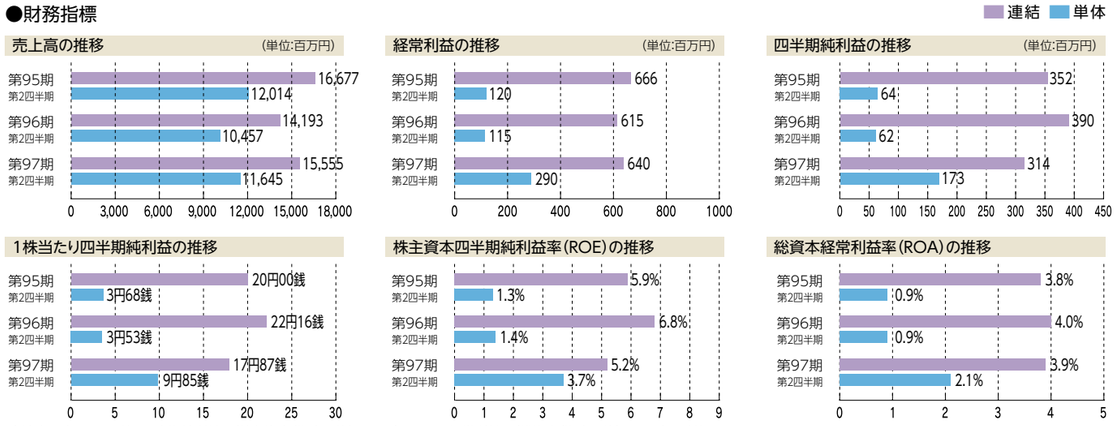
経常利益(連結)

円高による為替差損の発生があったものの、売上高の増加に加え、コストダウンや収益性改善を進めたことにより、前年同期比4.0%増の6億4千万円となりました。

四半期純利益(連結)

固定資産売却損や減損損失を計上したことなどにより、前年同期比19.4%減の3億1千4百万円となりました。

●財務指標



(注)上記中、ROEは第2四半期純利益／(株主資本(期中平均)×1／2)、ROAは経常利益／(総資本(期中平均)×1／2)で計算しています。

連結対象会社

山田製薬株式会社
コスメラボ株式会社
イーラル株式会社
日華化学研発(上海)有限公司
ニッカ U.S.A., INC.
ニッカ KOREA CO., LTD.
PT.インドネシアニッカケミカルズ
浙江日華化学有限公司
台湾日華化学工業股份有限公司
STC ニッカ CO., LTD.
ニッカ VIETNAM CO., LTD.
香港日華化学有限公司
広州日華化学有限公司

持分法適用会社

ローディア日華株式会社

個別財務諸表

貸借対照表

(単位:百万円)

科　目	当第2四半期 (2010年9月30日現在)	前期 (2010年3月31日現在)	増減
(資産の部)			
流動資産	10,349	10,209	140
現金及び預金	990	897	
受取手形及び売掛金	5,676	5,633	
商品及び製品	1,633	1,397	
仕掛品	285	336	
原材料及び貯蔵品	776	735	
その他	988	1,209	
貸倒引当金	△1	△1	
固定資産	17,379	16,545	833
有形固定資産	10,495	9,835	660
建物及び構築物(純額)	2,717	2,755	
機械装置及び運搬具(純額)	642	668	
土　地	4,627	4,627	
その他(純額)	2,507	1,782	
無形固定資産	358	328	30
投資その他の資産	6,525	6,381	143
資産合計	27,729	26,755	974

科　目	当第2四半期 (2010年9月30日現在)	前期 (2010年3月31日現在)	増減
(負債の部)			
流動負債	10,644	9,294	1,349
支払手形及び買掛金	3,163	3,084	
短期借入金	5,096	4,179	
未払法人税等	63	107	
賞与引当金	440	420	
その他	1,880	1,503	
固定負債	7,704	8,060	△355
長期借入金	4,761	5,117	
退職給付引当金	2,193	2,243	
役員退職慰労引当金	0	169	
その他	750	529	
負債合計	18,349	17,355	994
(純資産の部)			
株主資本	9,328	9,332	
評価・換算差額等	51	67	△15
純資産合計	9,379	9,400	△20
負債純資産合計	27,729	26,755	974

損益計算書

(単位:百万円)

科　目	当第2四半期 (2010年4月1日～2010年9月30日)	前第2四半期 (2009年4月1日～2009年9月30日)	増減
売上高	11,645	10,457	1,187
売上原価	7,786	7,000	785
売上総利益	3,858	3,456	402
販売費及び一般管理費	3,534	3,284	250
営業利益	323	172	151
営業外収益	185	86	99
営業外費用	218	143	75
経常利益	290	115	175
特別利益	0	4	△4
特別損失	65	3	62
税金等調整前四半期純利益	225	116	109
法人税等	52	54	△2
四半期純利益	173	62	111

売上高(個別)

自動車産業の回復により化学品事業の需要が持ち直したことや、化粧品事業での新商品投入などにより、前年同期比11.4%増の116億4千5百万円となりました。

経常利益(個別)

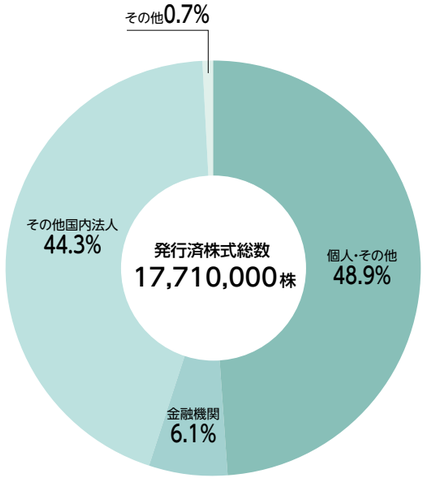
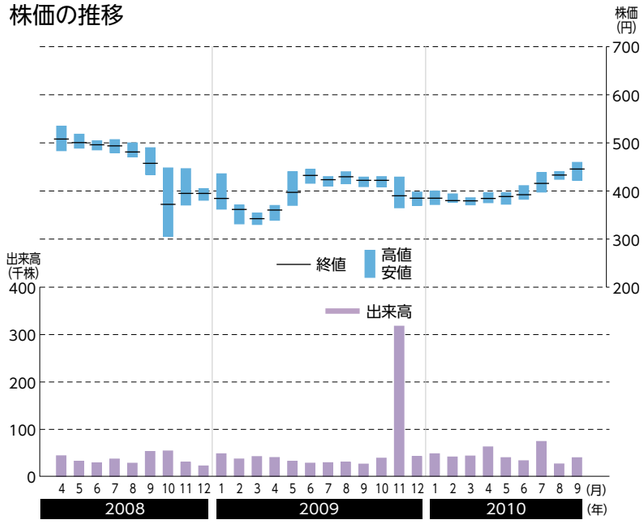
売上高の増加に加え、国内子会社からの受取配当金の計上などにより、前年同期比152.3%増の2億9千万円となりました。

四半期純利益(個別)

経常利益の増加などにより、前年同期比179.0%増の1億7千3百万円となりました。

株式の状況 (2010年9月30日現在)

所有者別分布状況



株価の推移